第3学年3組　国語科学習指導案

１　**単元名・教材名**　音訓かるた

２　**本時の学習指導**　（本時１／２）

　（１）目標

　　　○カンジ―はかせの「音訓かるた」を読んで、漢字を読んだり書いたりすることが出来る。

　（２）展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **学習活動** | **学習内容** | **指導と評価の創意工夫** | **時間** |
| １　本時の学習課題を理解する。２　音読みと訓読みを区別して、教科書Ｐ９４の歌を読む。＜予想される児童の反応＞・音と訓の違いをだいたい理解している。３　読んだ歌を紙に書いてかるたを作成する。４　歌の中で線の引いてある漢字については振り仮名を書く。５　それぞれの漢字の読み仮名を確認する。６　班で作成したかるたを用いて遊ぶ。○三年生までに配当されている漢字を読んだり書いたりしている。　→読んだ歌の漢字をかるたに書き、その漢字の振り仮名を書いている。【言語活動】○正しい音訓や送り仮名で文を作っている。→振り仮名を振った漢字の音と訓をしっかりと区別できている【言語活動】（机間指導による考察）（かるたによる考察）このような姿が見られれば、「おおむね満足できる状態である」と判断できる。７　本時のまとめをする。 | ・本時の学習課題音と訓に気をつけて漢字を読んだり書いたりしよう。・音読みと訓読みの区別をして読むこと・新出漢字を使って書くこと・音読みと訓読みの振り仮名を振ること・音読みと訓読みの確認・音読みと訓読みのかるた・本時のまとめ | ○同じ漢字を含む熟語を並べ、音読みと訓読みで読み方が異なることを確認させる。○音読みと訓読みの区別をうまくできない児童に対しては、三年上巻「漢字の音と訓」で学習したことを想起させる。○班を作成し、班の中で誰がどの歌を紙に記入するか決める。○音読みについてはカタカナで、訓読みについてはひらがなで振り仮名をふり、区別を意識させる。○読み方が分からない児童に対しては教科書Ｐ９５、Ｐ１４８を参照するよう指導する。○机間指導を行い、児童の進度を把握する。○どちらが訓読みでどちらが音読みなのか、はっきり区別させながら発表させる。○作成した読み札に対応した絵札を配る。そして教員が読み札を読んで、児童が絵札を取る。○かるたで遊ばせ、音と訓に対して、親しみを持ってもらい、次時への意欲を湧かせる。○とった絵札に対応する読み札をノートに貼り付けさせる。○本時の振り返りを行い、次時の予告を行う。 | ５７７７５１０３ |

３　板書計画

音と訓に気をつけて漢字を読んだり書いたりしよう。

め

音読み→カタカナ

訓読み→ひらがな

千　音　セン

　　訓　ち

羊　音　ヨウ

　　訓　ひつじ

勝　音　ショウ

　　訓　か-つ

等　音　トウ

　　訓　ひと-しい

速　音　ソク

　　訓　はや-い